

東邦キャンパス

平成 28 年 (2016 年) 1 月 30 日

発行 学校法人 東邦学園

〒465-8515 名古屋市名東区平和が丘三丁目11番地

TEL 052 (782) 1241 FAX 052 (781) 0931

H P click! 検索 愛知東邦大学
東邦高等学校



東邦高校が28回目のセンバツへ



2016年球春を告げる第88回選抜高校野球大会(春のセンバツ)で東邦高校の活躍が期待されています。2015年秋季東海地区大会で優勝し、明治神宮大会に出場した時点で28回目のセンバツ出場が事実上決定していました。エースで4番の藤嶋健人主将は140キロを超えるストレートとバッティングパワーでチームを牽引。甲子園での活躍が期待されています。

女子サッカー部がインカレ2回戦に進出

兵庫県三木市で開催された第24回全日本大学女子サッカー選手権大会(インカレ)に3回目の出場を果たした愛知東邦大学女子サッカー部は1回戦で、福岡大学・九州国際大学に3-0で勝利し、前回1回戦敗退の雪辱は果たしました。2回戦では姫路獨協大学に1-9で敗退しましたが、1、2年生たちがインカレ舞台を経験できたことは次に繋がる大きな成果になったはずです。



年頭所感

未来から今を考えよう

学園理事長 愛知東邦大学学長 榎 直樹



年末から年始、うれしいことが続きましたね。高校硬式野球部のセンバツ出場決定、大学女子サッカー部の2年連続大学選手権出場、さらに高校と大学、卒業生による吹奏楽がローズパレードで見事なマーチングを繰り広げてくれたことです。

さて、「いま」を満喫する学生・生徒の方々、この先、自分がどんな仕事をしているのか想像したことがありますか。

昨年暮に発表された衝撃の報告を紹介します。「10年から20年後には、235種類の職業が機械や人工知能で代替可能となる。日本でいま働く人の49%、2,500万人に当たる」と。現在の職業をそのまま続ければ、10～20年後には日本で働く人の半数、2,500万人が失職

する可能性があるのです。日英の研究機関のコンピューター分析予測です。

数値的正しさは別としても、機械化と自動化が進むことは確実です。改札口で切符を扱っていた駅員さんがワンタッチ式の今、姿を消したことで分かるでしょう。代替される確率が特に高い職業には店員や事務員、作業員などです。代替されにくい職業には、アーティストやデザイナー、医師、教員など、創造的な仕事が予測されています。

今何を身に付け、どう鍛えるか。未来の姿から現在を見通して、勉学に励む年にしてください。

更なる飛躍に向けて

東邦高等学校校長 佐々木 泰裕



新年あけましておめでとうございます。

2014年12月に中央教育審議会答申(「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」)が提言されました。高校教育改革の大きなテーマは「高校教育の質の保証」で、各学校が自主的に到達目標を設定して、「質保証」に取り組むことが求められています。更に、新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けて、知識の質や量だけではなく、学びの質や深まりを重視することが必要であると言われています。

2015年は、授業手法の工夫改善に向けて、多くの先生方に積極的に研修会等に参加していただけるよう努力しました。更に学校としても、Wi-Fi環境の整備、全

教員PC貸与、プロジェクター大量購入、メディアセンター・情報教室の利用時間拡張など、学習環境の整備に努めてまいりました。

2016年も東邦高校が更なる飛躍を遂げられるよう、「学びの改革」をめざして努力してまいります。



東邦高校生と
127回ローズ・パ
ディズニーラン
女子生徒の歌唱
ラパルマにある
衆に感動を与え

ベストパフォ

行ってきました
2015年12月21日
衆としては初めて
員、高校吹奏楽部
了しました。

エンゼルススタジ
自由研修。遠征前
で練習に出かけま
にハーフパンツで
初本番はナッツベ
の本番は正直、東
うことを自覚する



愛知東邦大学生ら112人の東邦グリーンバンドが米国カリフォルニア州パサディナ市で1月1日に開催された新年恒例行事である第1パレードに参加し、沿道を埋めた市民たちから喝采を浴びました。東邦グリーンバンドは、12月27日のナッツベリーファーム、29日のディズニーランドでのクリスマス・ナイト・パレード、30日にはパサディナ・シティ・カレッジの競技場で催されたローズ・フェスティバルでも演奏。を交えた演奏や男子生徒のパフォーマンスが好評で、大きな拍手を送られました。帰国を前にした1月3日にはカリフォルニア州ケネディ高校のコンサートホールで、昨年暮れに同州内で起きた銃撃事件の犠牲者を追悼する意味を込めた演奏を行い、700人の聴衆がありました。

パフォーマンス ALL TOHO!!

東邦グリーンバンドディレクター 白谷 峰人
(愛知東邦大学学生課職員)

アメリカ！

から2016年1月6日。17日間の海外遠征は東邦吹奏部の経験でした。東邦高校と愛知東邦大学の吹奏楽部卒業生合わせて112人という規模での遠征は無事終

アムの巨大駐車場での練習、ディズニーエリアでの半は練習に明け暮れました。朝は肌寒く、厚着をしましたが陽がさすとまるで夏のような気候。Tシャツ練習しました。12月28日、アメリカへ来てからのリーファームのステージパフォーマンスでした。こ邦のパフォーマンスがアメリカでは通用しないということになりました。

しかし、12月29日のディズニーランドでのナイトパレード、12月30日のバンドフェスティバルと立て続けに本番と練習を行い挑んだ1月1日のローズパレードでは、1人も欠けることなく全員が約2時間半のパレードを完歩しました。大歓声の中、堂々とパレードするメンバーたちの姿は完全に日本を代表するチームとなり、メンバー個々のエンターテインメント性も間違いなくアップしていました。

17日間の遠征で、学んだこと、経験したこと、すべてのことが今後の吹奏楽部としての活動や学生生活、社会生活に少なからず影響することと思います。

最後になりましたが、今回の遠征に関わる全ての準備や事務手続き、現地でのサポートなどをしてくださったNPO法人日米グリーンバンド協会代表の熊谷譲氏を始め多くのグリーンバンド関係者の皆様、寄付等陰ながら心強い応援をしてくださった企業関係者の皆さま、教職員の皆さま、そしてこの貴重な海外遠征に送り出していただいたご家族の皆さまに深く感謝いたします。ありがとうございました。

高校の行事

東邦生が躍動！体育祭・文化祭

生徒会正顧問 古田 知子

体育祭が晴天に恵まれた9月29日に行われました。団対抗リレー、学年対抗リレーなどの競技種目、「台風の日」や綱引きなどの団体種目、東邦伝統の1年生全員による花笠、そして学年を超えて一つになった応援合戦など、父母の皆さんの声援に答え、生徒たちは思いっきり競い合い、楽しみました。

文化祭は9月25、26日に開催されました。「TOHO+ONE」をテーマに、展示バザー、舞台、模擬店、教室パフォーマンス、クラブ企画、有志企画、PTA・同窓会企画などを通して、仲間と団結して一つのものをつくりあげる喜びを分かち合いました。夏休みから準備・練習を重ねてきた生徒たちのエネルギーが躍動

した2日間となりました。2日目の「交流の広場」で行われた学園祭本部企画「今昔！今と昔をつなぐ文化」は、食文化や音楽、美術など身近な文化の過去と現在を知り、文化と平和について考えようという企画でした。また、生徒会平和企画では、来場者全員を対象とした安全保障法案の是非を問う模擬投票を実施しました。生徒会執行部生徒が夏休みから学習や取材を重ねてきたことをパネル展示し、18歳選挙権が2016年から始まる今、高校生も主権者として考えようと広く呼びかける企画となりました。

模擬店やバザーの売上は、ユニセフ、日本赤十字社（東日本大震災支援）、WWF、愛知私学奨学支援資金財団、戦争と平和の資料館ピースあいちなどへの寄付にあてられます。また、沖縄ひめゆり祈念資料館へは、2年生の修学旅行団が募金を届けています。



和太鼓



展示企画・コーヒーカップ



模擬投票

人間健康コース 「栄養から考えるからだづくり」

人間健康コース 横井 由弦

4月よりスタートした人間健康コースでは、総合的な学習の時間に多岐にわたる学習の機会を設けています。今回の授業では「アスリートに必要な食事」と題して、株式会社たべもの工房代表取締役の四元友理先



生に授業をお願いしました。

この授業では日頃の食生活や栄養管理を考え、自身でも栄養バランスの取れた食事を意識するための基礎的な学習をしました。また、身体を作るために必要な栄養素を知り、2週目にはグループで調理実習をして実践的な調理を通じて学びました。

生徒たちも、食を通じて学び得たものでこれからの競技生活をより豊かなものとすることができると確信しています。

文理特進コースが岐阜大学で連携授業を実施

文理特進コース責任者 稲葉 益夫

普通科文理特進コースは9月、岐阜大学応用生物科学部で、3年連続となる高大連携授業を2日間にわたり実施しました。理数コース時代から続くこのような連携授業は計12回目の実施となります。

岐阜大との連携授業は名城大、名古屋大、名古屋工業大に次いで企画です。高大連携授業は文系、理系選択前の1年生に対して企画されています。2015年度から、予算削減のあおりを受けて従来の「SPP」(サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト)は廃止され、公の予算なしに岐阜大学側の好意による無償実施となりました。2015年度のテーマは、「未来を拓くセルロースを知り、使ってみよう」。生徒たちはセルロースを用いた複合材料の開発を学習し、特性を生かした七色に輝く液晶をつくる実験に取り組みました。大学院生の協力もあり、高校生時代の進路選択の話なども交えた充実した授業が行われました。文理特進コースでは次年度以降も取り組めるよう、チャンネルを多くして大学との連携をしていきたいと考えています。



商業科・普通科 歴史と文化を訪ね現在を考える旅

2年生学年主任 高倉 清文

11月5日から商業科・普通科13クラスが、3団に分かれ沖縄に出かけました。亜熱帯性気候の暑さに困惑しながらも、生徒諸君は、夏休み前からの事前学習で得た知識を基に平和学習と文化体験に取り組みました。

過去を学習し現在を知り、そして未来につなげられるようにと生徒たちには話しかけてきたつもりです。沖縄本島中部の宜野湾市にあり、沖縄戦時の激戦地だった嘉数高台公園^{かかず}では実際の陣地跡を見学し、米軍上陸の宜野湾と普天間基地を展望し、ひめゆり平和祈念資料館へと向かいました。

沖縄戦の悲惨な出来事を伝えてきたひめゆり部隊の方々は、現在では次々とお亡くなりになっており、今回はVTRに収録された映像での語り部体験とはなりましたが、生徒達は真剣に資料を読み、貴重な体験をすることができました。



翌日の平和祈念堂での平和集会でも、文化祭での模擬投票や他府県の戦争体験者のお話などが盛り込まれ、今そして未来に向かい自分達がしなければならないことが宣言文として読まれました。文化自然体験としては、エイサー体験、美ら海水族館の見学、さらには物作りとマリン体験のグループに分かれ楽しみました。

彼らの発散するエネルギーと笑顔は、彼らが本当に真面目に取り組んだ「平和について考える」機会になるとともに、沖縄修学旅行の良い思い出となりました。



美術科 2年目のパリ修学旅行

修学旅行第4団団長 今井 通昭

2014年度から始まった、美術科を対象としたパリ修学旅行。2015年度も前年度とほぼ同一の行程に沿って11月5日～11月10日まで実施されました。ルーブル美術館やオルセー美術館、そしてポンピドゥー・センターを見学するなど、先史時代～19世紀～近現代に至る各美術作品が、バランス良く段階的に学べるようになっています。さらには、ゴッホゆかりの地(オーヴェル＝シュル＝オワーズ)でのスケッチ実習、伝統ある美術学校(アカデミー・グラン・ショミエール)でのデッサン研修など、芸術の本場で美術を思い切り体感できるメニューも組まれています。

もちろん、定番の観光スポットであるエッフェル塔や凱旋門、モンマルトルの丘、そして、シャンゼリゼ通りでの自由散策など、花の都パリを存分に満喫できる時間も含まれています。

今回はユネスコ本部への訪問はかないませんでした。代わりにパリにその支局がある「国境なき医師団」を訪れました。本校の修学旅行の柱の一つである平和学習の集大成として、生徒達の心にも強く印象付けら



れたことと思います。

美術の素養をより高める研修的な要素もさることながら、生徒達は美術を学ぶことで培われた特有の感性で、目の前に広がる「This is Europe !!」(これぞヨーロッパ)を思わせる風景にじっと見入っていた姿が印象的でした。

私達が帰国した3日後の11月13日に、パリで同時多発テロが起きました。どの現場も旅行中に巡った地点から比較的近い場所でしたので、驚きもひとしおでした。益々グローバル化する国際社会にあって、より深刻さを増す現実の国際問題をまざまざと実感する思いでした。

第23回 未来の芸術家たち展を開催

美術科教諭 岡本 増吉



美術科21期生、商業科グラフィックデザインコース15期生の卒業制作展である「第23回未来の芸術家たち展」が12月15日から20日までの6日間、愛知県美術館8階G室で開催されました。5月半ばから制作にかかり直前までこだわり抜いた作品群で、会場は熱気にあふれていました。初の試みとなった土日

の2日連続ギャラリートークも展覧会を盛り上げ、そして成功裏に終えることに貢献しました。

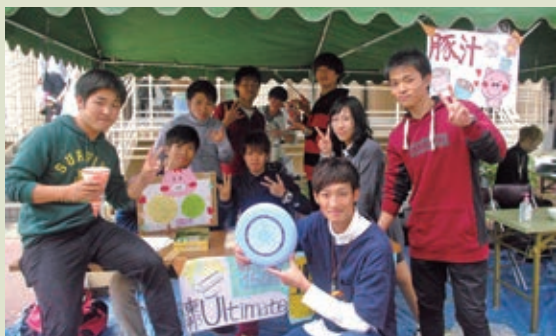
生徒たちにとってこの展覧会がこれから新たなステージへと踏み出すきっかけとなり、今後に生かされることを願ってやみません。ご協力、ご観覧いただいた皆さま本当にありがとうございました。

大学の行事

地域の笑顔もあふれた 第51回和丘祭「祭響」

学生会実行委員長 松井 健斗

第51回を数えた愛知東邦大学の和丘祭。幾多もの先輩方がこの和丘祭の歴史を創り上げてきました。そんな先輩方の想いを受け継ぎ、そして自分たちの色を加え、新たな挑戦とともにさらなる躍進を願い、今年の和丘祭を「祭響～新たな1ページ～」のテーマとして11月7、8日に開催しました。このテーマにある「祭」の文字には、和の心を重んじ大学生の創り上げるお祭りの中に、日本における和風の雰囲気強く出したいと言う意味を込め、続く「響」の言葉にも強い気持ち



様々な企画や出店で盛り上がった和丘祭

を込めています。それは僕らの想いや気持ちが愛知東邦大学内だけでなく、名東区の地域の方々へと響き渡り、そして未来の東邦生へと想いを紡いで行ってほしいと言う強い想いが込められています。

実際に今年の大学祭は愛知東邦大学内だけのものではなく、平和が丘学区の地域の皆さまとも手を取り合い、毎年同じ時期に開催される「平和が丘 秋まつり」とコラボレーションした催しも開催される予定でしたが雨天のため中止となってしまいました。ですが、大学祭当日には秋まつりの皆さまも大学内で出展していただき、子どもたちの笑顔もあふれ、とても嬉しい光景が生まれました。今この時しかない学生の時間。その中で一つでも笑顔あふれる思い出を提供することができたと実感しています。

ありがとうございました！



大人気のステージ企画

23人がインターンシップ体験

就職委員会 手嶋 慎介

本年度夏期のインターンシップ(正課科目)では、経営学部地域ビジネス学科6人、人間学部人間健康学科17人の3年生23人が2週間の実習に参加しました。2014年度に引き続き、教育連携をしている株式会社名古屋グランパスエイトでは4人の学生が実習を行い、試合でのサポートやスクールキャンプへの引率など、大学の授業などでは得ることのできない貴重な経験をさせていただくことができました。また、産学連携協定を結んだばかりの愛知信用金庫の猪子石支店や、名東区役所、愛知中小企業家同友会会員企業を中心に、多方面にわたる事業所でお世話になりました。

2週間という短い期間ではありましたが、参加した

学生たちは、社会で働くことの厳しさを知り、新たな目標設定を行うことができました。今後はインターンシップの体験を就職活動でも大いに生かし、1日も早く全員が希望している進路に就くことを期待しています。



愛知信用金庫猪子石支店で実習する学生

東邦プロジェクト

地域の人向け企画が好評 「アタマとカラダの健康づくり」

経営学部教授 上條 憲二



LCホールでのipad教室

東邦プロジェクトとは地域の活性化のために、学生が主体的に企画し実施するユニークな活動です。7月23日には、地域の年配の皆さんを対象に、「アタマとカラダの健康づくり」をテーマに、「ipadの使い方」と「ふまねっと運動」を合体させた第1回教室を開きました。

「ふまねっと運動」とは50cm四方の網をふまないように慎重に歩く運動で、歩行機能、認知機能の維持改善に効果的な運動です。

経営学部と人間学部の学生による合同企画ですが、経営学部の学生の事前調査では、年配の皆さんは、「スマホやipadには興味はあるがなかなか手が出せない」との思いがあることが分かりました。当日、「ipad教室」に参加の皆さんは、初めて触れるタブレットに興味津々。すぐにコツを覚えて、YouTubeや写真撮影、検索機能を楽しんでいました。初めての試みでしたが大変好評でしたので、継続して実施することが決まりました。

東邦プロジェクト

企業とコラボで愛知東邦大学 ブランド商品開発が始動

経営学部教授 上條 憲二

「大学独自の商品ブランドを創り、販売したい」という学生たちの思いを込めた企画がスタートしました。幸い、名古屋市内の企業が商品開発協力をしてくださることになり、その企業と東邦プロジェクトと



プロジェクトで考えた商品ブランド「アットアイデア」

の「コラボ」が実現しました。まずはアイデア募集から始めましたが、全学生に応募を呼び掛けたところ150強のアイデアが寄せられました。その中から、プロジェクトメンバーが提案する企画40案を選び、コラボ先企業にプレゼンテーションを行い、スマホケース、Tシャツなどを実際に商品化することが決まりました。



学生が考えたスマホケースのデザイン案

メンバーはこの本学独自のブランド名称を「@idea」(アットアイデア:Aichi-Toho idea)とし、国内外に向けて積極的に告知活動をしていこうと意気込んでいます。今後の商品企画にご期待ください。

子ども発達学科生が名東児童館でクリスマス会

教育学部教授 矢内 淑子

子ども発達学科の学生9人が地域と連携した教育として、名東児童館で12月18日、クリスマス会を行いました。名東児童館は、学生が訪問し現場経験をさせていただく「サービス・ラーニング」の受け入れ先にもなっています。「子どもたちから もっと学びたい」という学生の要望から今回のような企画が生まれました。学生たちは子どもたちに喜んでもらえるよう、ブラックシアター、手遊び、パネルシアター、ミュージックベル、ピアノ連弾などの事前準備を行い、当日は子どもたち70人と一緒にクリスマスを楽しみました。



公務員を目指す取り組み 「東邦STEP」

東邦STEP運営委員会

公務員採用試験の合格を目指して4年間取り組むプログラム「東邦STEP」は2015年4月に誕生しました。1期生の受講生は18人。受講生たちのうち8人が東邦高校出身者です。2015年度の取り組みでは、1日3時間、週2日の講義に加え、9月にはFP(ファイナンシャルプランナー)3級試験を全員が受験。静岡県での夏合宿も行いました。今後は1月24日のFP2級試験に挑戦します。



夏合宿に参加した1期生たち

2期生を迎える2016年度はさらに受講生が増えそうです。学生たち一人ひとりが目標を達成できるように今後も支援を続けていきます。東邦STEPのプログラムに興味を持たれた方は大学就職課までお問い合わせください。

4年生が「就職内定報告会」で 3年生にアドバイス



教室が満杯となった内定者報告会

就職が内定した4年生たちが自分たちの体験をこれからの就職活動に挑む3年生の後輩に伝え、参考にしてもらう「内定者報告会」が11月10日、「キャリアデザイン」の授業を使って行われました。報告会にはいずれも100人近い学生が参加。冒頭、就職課長が、「新聞やテレビでも報道されているように、来年の就職活動では選考解禁が8月から6月に前倒しとなり、皆さんはタイトなスケジュールになります」と、3年生たちに、緊張感を持って就職準備に入るよう訴えました。

報告会では、瀬戸信用金庫、三井住友銀行、八神製作所、公務員などに内定を決めた経営学部と人間学部の4年生6人がそれぞれの就職活動での体験を語り、アドバイスを送りました。

内定をとった経営学部の丸山敬太さんは、インターンシップ体験が役立ったことを語るとともに、「どの会社でも筆記試験はあるのでSPI(教養試験)対策は今すぐにでも始めてほしい」と強調しました。

グランパスとの連携で多彩な事業

地域連携委員会 大勝 志津穂

大学では2015年度も、名古屋グランパスと連携して様々な活動を行っています。6月28日には、豊田スタジアムで行われたファン感謝デー「LOVEグランパス・フェスタ」にボランティアスタッフとして36人の学生が参加しました。約5000人のサポーターの皆様楽しんでもらえるよう、スタッフの一員として裏側からイベントを支えました。

8月22日には、本学日進グラウンドで「TOHO×名古屋グランパス第2回ガールズサッカーフェスティバル」を開催しました。このフェスティバルは、愛知県内の女子サッカー普及のために、本学と名古屋グランパスが連携して取り

組んでいるもので、今年で2回目となります。名古屋グランパススクールコーチ指揮のもと、本学の女子サッカー部員も指導にあたり、約40人の小学生女子がボールを追いかけること、蹴ることの楽しさを体験しました。



LOVEグランパス・フェスタで
スタッフとして活躍する学生たち

また、夏にはインターンシップに参加したり、9月からは、愛知東邦大学で「グランパスチアダンススクール」を開講しています。さらに、後期授業「東邦プロジェクト」では、2016年名古屋グランパスホーム開幕戦に向けた商品企画にも取り組んでいます。

大学「教職支援センター」スタート

教職支援センター長・教育学部長 今津 孝次郎

懸案だった「教職支援センター」の設置が全学教職課程委員会の議を経て運営委員会で認められ、2015年10月1日より活動を開始しました。月1回開催のセンター運営委員会では、さっそく重要案件の積極的な討議が始まっています。

まず小・中の教員免許取得をどうするかについてです。超少子化の大波を受けて、小中一貫校が増加するなか、中高免許だけでなく小学校免許も取得することが要請されており、教育学部



小学校教員養成課程の授業を有効に活用することなどが検討されています。

次に教員採用試験に合格するための対策強化の取り組みです。セ

ンターが日常的に取り組む体制を固め、確かな成果を出していく具体策が実行に移されつつあります。

その他、来るべき教員免許法改定に対する備えや、教員免許状更新講習の抜本的改善など課題は山積みですが、スピーディに対応したいと、センター全体で気を引き締めているところです。



学校という「現場」に即した学びの重視

中高教職課程委員会

中高教職課程の特徴的な取り組みとして、①教育実習体験報告会と②卒業生が語る教職の2つのイベントを紹介します。

まず教育実習体験報告会ですが、これは教育実習に出かけた4年生がそこでの学びを3年生以下の教職課程学生に語るというものです。できるだけ早く教育実習へのスタート切ってほしいという思いから、4年ほど前より継続的に取り組んでいます。今年の4年生は何度もありハールをして本番に臨んでくれたため、非常に充実した報告会になりました。

卒業生が語る教職は、現在、学校現場で働いている卒業生をゲスト講師に招き、若手教師ならではの苦労や工夫について語ってもらうものです。本年度は、風間拓也さん(人間学部人間健康学科1期生)と後藤航さん(同4期生)からそれぞれ、小学校と特別支援学校の事例についてご紹介いただきました。

いずれも、教職について現実に即した理解や実践的課題の捉え直しを図っています。理論だけでなく実践や体験も伴った学習の機会を今後も充実・発展させていく予定です。



7年目を迎えた本学の教員免許状更新講習

教職支援センター 新村 健

本学の教員免許状更新講習は教員免許更新制が導入された2009年度より実施し、2015年度で7年目を迎えます。昨年度に引き続き、8月と11月の時期に合わせて必修領域2講座、選択領域6講座を開講しました。今年度は必修領域の定員を昨年度の100人から200人と倍増させ、その結果のべ350人を超える先生方に受講していただきました。また、2015年は幼稚園教諭を主な対象とした講座を開講したため、幼稚園教諭や保育士の方の受講が目立ったことも特徴です。

本学は教育学部を始めとして、全ての学部で教職課程を有しており、幼稚園から小・中・高に至る教員養成を行っています。その本学が愛知県内を中心とする現職の教諭、養護教諭等の先生方や教育委員会の要望に応える目的で始めた教員免許状更新講習も徐々に規模を拡大し、現在では必修領域の定員数比較で、県内では愛知教育大学に次ぐ規模となっています。今後についても2015年10月に新たに設置された教職支援センターにて、幼・小・中・高の先生方の期待に応えられるよう、質量ともに充実を図っていく予定です。

キャンパス短信

高校

2015年も国際交流が活発でした

法人

「21TOHO教育充実事業募金」 ～ご協力に深謝～

21TOHO教育充実事業募金事務局

学園では教育環境整備、施設設備の充実、教育研究活動の奨励に取り組むため、「21TOHO教育充実募金」の活動を展開しております。これまでも多くの方々から多額の募金を頂戴し、高校新校舎および大学新棟の建築やグラウンド新設のための資金として運用させていただいております。

また本年も、高校8回卒業生の仲正興氏が本校を訪問された折、500万円のご寄付を頂戴いたしました。皆さま方からのご支援に対しては、「人格教育」を重視する建学の精神に立った21世紀に有意な人材を育て、卒業生が実業界をはじめ各界で活躍することで恩返しさせていただきたいと考えております。

なお、募金についての要項ならびに寄付金の免税措置につきましては、大学・高校の各ホームページにも掲載しております。今後ともご理解を賜り、ご賛同をいただけますよう衷心よりお願い申し上げます。



国際交流室長 伊藤 保憲

東邦高校では2015年も活発な国際交流が行われました。9月1日から留学生生活を始めたジェスさんはニュージーランドの姉妹校であるシャー



リーボーイズハイスクールからやってきました。日本語はまだ半年しか学んでいないとのことですが、将来は日本で働くことを視野に入れて、日本語を中心に2年生のクラスで学んでいます。

文化祭前後にやってきたのはニュージーランド、オーストラリアの姉妹校3校からの旅行団でした。合計で26人の生徒たちは、本校生徒宅にホームステイをして、日本の実際の家庭生活を体験しただけでなく、本校の文化祭にも参加しました。東邦での充実した体験を終えた旅行団の生徒たちの感想は「Toho is amazing!!」でした。

南フランスのセットという街からやってきたセシルさんは、10月の1カ月間を2年生美術科で留学生生活を体験しました。クラスメイトたちにとっては修学旅行直前の事前学習にもなりました。最後の日は涙を流して東邦を後にしていきました。12月にはオーストラリア姉妹校からチェルシーさんが本校での1カ月の留学のために来校。チェルシーさんは日本の年末年始を体験しながら授業に参加しています。

大学・高校

71年目の「慰霊の日」で献花式

三菱重工名古屋発動機製作所大幸工場で太平洋戦争末期の1944年12月13日、勤労働員中に空襲の犠牲になった東邦商業学校の生徒・教員20人を追悼する献花式が「東邦学園慰霊の日」の12月3日、東邦高校「平和の碑」前で行われました。東邦高校生や愛知東邦大学生、東邦学園教職員、東邦辰巳会の会員たち計200人近くが参列。榊直樹理事長は、2015年ノーベル生理学・医学賞を受賞した大村智博士が特効薬の開発で2億人の人々を救ったことについて触れ、「不幸な人々を救い、進んで平和な暮らしを作り出す担い手となるその使命感と覚悟を新たに追悼と誓いの言葉とします」と述べました。全員で黙祷後、参列者たちは一人



「平和の碑」の前で追悼の言葉を述べる榊理事長

ひとりが「平和の碑」前に献花しました。東邦辰巳会代表の岡島貞一さんは「犠牲になった仲間たちの悲劇を東邦学園の後輩たちにも絶対に忘れてほしくない」と話していました。

クラブ活動 高校

ダンス部

♪SHD&TDC DANCE PERFORMANCE 「STaTuS」VOL.5を終えて

ダンス部顧問 伊藤 恵子

2016年最初のパフォーマンスは、1月11日(祝)の至学館高等学校との合同発表会でした。VOL.1「StarT」、VOL.2「SpiriT」、VOL.3「Show Time」、VOL.4「STep」と今回で5回目という節目を迎え、VOL.5は「STaTuS～are you?～」自分たちの個性を生かした作品を、それぞれのスタイルで表現するということをテーマに設定しました。



OPENINGでは、合同で創り上げた作品を部員同士コラボレーションして踊り、各校それぞれの作品とクラブ紹介DVD、大会作品、そしてエンディングとおかげさまで1時間半無事終えることができました。皆さんの応援と支えがあってこそこの舞台だったと感謝しております。ありがとうございました。また、毎年メンバーは変わりますが、回を重ねるごとにお互いにダンスを通しての絆が繋がれてきました。

これからも“伝えたい想いがあるから踊る”ことを大切に、いつも支えて下さる方々と空気を共有できる作品創りができるよう、更にスキルアップしていきたいと思っています。

写真部

ニコン「Top Eye写真コンクール」 で2年生部員の組写真が入賞

写真部顧問 小塚 康成

写真部の主な活動は、学校行事の撮影と各種写真コンクールへの出品や学内での定期的な展示を主に行っています。近年では、部員が撮った作品を発表する場として、校舎エントランスの壁面を利用し、年間を通じて写真展示を行っています。また、顧問の私自身がクラシックカメラの愛好家でもあることから、フィ



ルムカメラで撮影を行い、暗室での現像、プリントなども実施しています。

さて、このたびニコン主催の「Top Eye写真コンクール」において、2年生の瀧澤春介さんの「美しい猛獣」と題された組み写真が見事“準佳作”に入賞しました。荒々しい猛獣の印象とは異なり、静寂の中に佇み、凛とした美しさを感じさせる光の捉え方と構図が高い評価を受けたと思います。全国から多数の応募があり、実力のある作品が集まるコンクールとあって今回の入賞は、本人にとっても部にとっても非常に嬉しい出来事でした。今後とも、様々な場面で生徒が活躍できる取り組みを目指していきたいと思っています。

放送部

放送部が今年もNHK杯全国放送 コンテストで県大会決勝進出

放送部顧問 平上 純一

放送部は、校内放送や、文化祭の司会などの学校行事を中心に活動しているクラブです。一年に一度、全国大会につながる大きな大会があります。愛知県で放送部のあるほぼすべての高校が参加するNHK杯全国放送コンテスト愛知県大会です。中でもアナウンス部門・朗読部門の予選には、各高校からそれぞれの部門に約150人が参加します。しかし、決勝まで残ることができるのはわずか20人です。近年では、生徒たちの努力の甲斐もあり、2012年(朗読2人)、2013年(アナウンス1人)、2015年(アナウンス1人)と、ほぼ毎年県大会決勝に進出することができるようになりました。

先輩と後輩との絆も強く、先輩が偉業を達成すれば、後輩たちも「頑張れば自分たちも結果が残せる」



とクラブ全体が盛り上がります。先輩たちの指導を受け、後輩たちの技術も毎年着実に向上しています。今後も、「全国大会出場と希望する進路との両立」を目標に、頑張っていきたいと思います。

男子バレーボール部

東海私学大会出場へ

男子バレーボール部顧問 稲葉 益夫

男子バレー部は7月に行われた愛知県私学大会で、6年ぶりに予選を勝ち抜き2月に行われる東海私学大会(静岡開催)の出場権を勝ち取りました。出場権のかかった試合では、フルセットでリードされた劣勢から、加藤弘樹らのスパイクで挽回して劇的な勝利を得ました。東海私学大会からは、全国大会への出場も目指せるために、現在チーム力を強化中です。



また、8月に行われた愛知県選手権県大会では、初めて2勝し、ベスト8に駒を進めることができました。シード制のひかれる県大会では初の快挙です。推薦での入部は一人もいない中で、コンスタントに勝ち続けることは至難の技です。それでも、ほとんどの県大会出場は確実にし、県大会上位進出を狙っています。今後も応援をよろしくお願いします。

アーチェリー部

野村さんが第12回「つま恋カップアーチェリー大会」で5位入賞

アーチェリー部顧問 齊藤 卓哉

静岡県掛川市で9月19、20日に開催された第12回「つま恋カップアーチェリー大会」にアーチェリー部の野村真由さん(3年)が出場し、70mラウンド72射で569点、高校女子の部5位に入賞しました。女子優勝は597点で、野村さんは2010年に本校の生徒で6位に入賞した得永美月さん以来の快挙でした。

同大会は、出場のために予め一定の点数を公式戦で出し、選考に通らなければならない全国レベルの大会。東邦高校では入学後アーチェリーを始める生徒ばかりですが、ここ数年こうしたハイレベルの大会に出場す



る選手も出てきています。

野村さんは中学校時代に地域のクラブでアーチェリーを始め、東邦高校入学後も多くの大

会で優勝、入賞を重ねてきました。しかし、今年度は夏まで本来の力がなかなか発揮できず苦しかったと思います。野村さんは進学準備のために練習は止めていますが、大学入学後、さらに大きな舞台で活躍されるでしょう。多くの部員が彼女の後に続いてくれることを願ってやみません。

バトントワリング部

息をのむほど美しい集団演技の魅力

バトントワリング部顧問 野原 望

私自身舞台を踏む趣味を持つからこそ、このスポーツの芸術性の高さには、一種敬意を抱きます。バトントワリングは、1年生から3年生まで、部員全員が選手となり、真夏から12月までかけてつくる集団演技。これは、いわく0.5秒のずれで絵が変わってしまう世界です。しかも、描くのは全国大会レベルの絵。体現するために、部員は各々大きな役割を担います。うまくいけば目立てる競技ではないかもしれませんが、むしろ穴が、約40人の中で痛烈に目に飛び込みます。先刻「よし」と言われたことも、わずかに視点をかえると「駄目」になる。そんな、ゴールや全体像のつかみづらい難しい練習ながら、2015年も頑張りを実を結び「バトントワリング全国大会高等学校の部ポンポン編成」に出場することができました。手具を投げないためなおさら、魅力的かつ崩れない身体表現が要求されるものとみえます。結果のほどは執筆時ではわかりませんが、ともあれコーチと生徒たちの描き出す世界は息をのむほど美しいので、ぜひ多くの方に知っていただけたらと思います。



2015年の演目「旋風」の衣装にて

クラブ活動 大学

女子サッカー部

掲げた4目標を達成

人間学部4年 仲里 紗弥

2015年度の目標は、①全日本大学女子サッカー選手権(インカレ)出場②愛知県選手権連覇③東海リーグ1部残留④愛知県リーグ1部昇格の4つでした。インカレは、4勝1敗の成績で、東海予選を第2位で通過し出場を決めることができました。愛知県選手権大会では、決勝で聖カピタニオ高校に2-1で勝利し、2連覇を果たすことができました。優勝したことにより、その上の段階である皇后杯出場の権利を得ることができましたが、予選敗退となり初の皇后杯出場を勝ち取ることができませんでした。東海リーグ、愛知県リーグについても、それぞれ掲げた目標を達成することができました。



今年度は、すべての目標を達成することができ、さらに、次年度に向けた新たな課題や目標も見つけることができました。常に「感謝」の心を忘れずに、チーム一丸となって「笑顔」でサッカーを楽しみ、目標に向かって進んでいきたいと思います。これからも、応援よろしくお願いいたします。

硬式野球部

1部昇格へ妥協許さないチームに

経営学部3年 角 泰成

来年度から愛知東邦大学硬式野球部主将を務めさせていただきます。2015年度愛知大学野球秋季リーグ戦(2部Bリーグ)が9月5日から10月26日まで行われましたが、結果は4勝6敗の3位という結果に終わってしまいました。

新チームが11月から始動しました。2016年春に向けて、チームのスローガンである「歴史を創る」という目標に向かって1部に昇格し、1部で勝ち上がるため、練習に対する意識を変え、勝つためには何が足りないのか、選手一人ひとりが考え、妥協を許さないチーム



にしていこうと思っています。来年度では、必ず1部に昇格できるようにしていきます。これからも盛大なご声援をよろしくお願いします。

男子サッカー部

東海1部リーグ昇格へ レベルアップの年に

経営学部1年 山崎 大樹

私たち愛知東邦大学男子サッカー部は東海1部リーグ昇格に向けて、藤川久孝監督、伊藤数馬コーチのもと、週6日、日進グラウンドで練習に励んでいます。4月から東海学生サッカーリーグ戦が始まり、前期後期に分けて9チームと順位を争います。

2015年度シーズンは残念ながら2部リーグ6位で終わってしまい、1部昇格を果たすことができませんでした。しかし21得点をあげた4年生の大本彬登選手が2部リーグの得点王に輝きました。リーグ戦の他にも、2つのトーナメント戦があります。2016年度シーズンでは1部に昇格できるように、チーム全員で力を合わせて精神的にも肉体的にもレベルアップしていきます。応援よろしくお願いします。



女子バスケットボール部

上位リーグ昇格めざし練習の日々

人間学部3年 山下 紗季

2015年度は、プレーヤー6人、マネージャー1人の計7人で、火曜日の自主練習と水・金曜日に通常練習

を行っています。2016年4月に行われる春リーグに向けて12月からは三河リーグに参加をし、様々なチームと対戦して個人スキルやチーム戦略などを身につけています。同時に他大学との交流を深め、土日に練習試合を行うこともしています。来年度の4月の春リーグで1つでも多く勝ち進み上位リーグへ昇格出来るように日々練習をしています。まだ成長段階ですが、応援よろしく願いいたします。



アルティメットサークル

全日本選手権予選で待望の初勝利

人間学部2年 江上 徹

「アルティメット」というスポーツはあまり知られていませんが、実はオリンピック競技になるかもしれないと言われている競技です。7人ずつ敵、味方に分かれて1枚のフライングディスク(いわゆるフリスビー)を投げ、パスをつないでエンドゾーンを目指します。最近ではCMやテレビ番組でも取り上げられるようになりました。

私たちは全国大会で成績を残すために週3日(月、火、金)、東邦高校のグラウンドで練習をしています。初めはメンバーも少なかったのですが1年生の加入により27人(男子20人、女子5人、マネージャー2人)になりました。いろいろな人たちの協力もあり5月にあった全日本選手権予選で初勝利を収めました。

他の大会でも着実に力をつけ勝てる試合も多くなり



1点差で負けるなど惜しい試合も増えてきました。この1点差で負けた試合での教訓を生かし、さらに飛躍するため、練習内容を濃くし、協力していただいている社会人の方々の指導を糧にして、2016年の全日本選手権予選や東海オープンで結果を出せるように頑張っていきたいと思っています。

ストリートダンスサークル FREE STYLE

ダンスで大学を盛り上げたい

人間学部3年 水野 孝紀

ストリートダンスサークル FREE STYLEは、11月7、8日の大学祭で、1日目に軽音部と初のコラボレーションをさせていただき、2日目はイベントのトリを務めさせていただきました。悪天候にもかかわらず、今年も大勢の観客とたくさんの歓声をいただき、大成功に収めることができました。また、インカレ出場の女子サッカー部の壮行会では、学生課の方から声をかけていただき、激励の意を込めてフラッシュモブをしました。女子サッカー部の人たちや、教職員の方たちからは、「びっくりしたよー!」「かっこよかったよ!」などと喜んでいただけました。これからも、新入生勧誘や卒業式や入学式などのいろんな場面で、ダンスを通じて見ている人を笑顔にして、ダンスの楽しさ、かっこよさを知っていただきたいです。さらにFREE STYLEの部員を増やし、ダンスで大学を盛り上げていきたいと思っています。



TOHO インタビュー

バンビと呼ばれた あの甲子園の夏は無心だった 野球ができる幸せかみしめた 神宮最後のマウンド

東邦高校OB 坂本 佳一さん
(岡谷鋼機勤務)

「有言即行で頑張っしてほしい」と後輩たちにエールを送る坂本さん

28回目出場となる今春の選抜高校野球大会で活躍が期待される東邦高校。チームを牽引するのはエースで4番の藤嶋健人投手で、1年生だった2014年夏の甲子園デビューでは、高校野球ファンたちから「バンビ2世」の声が上がりました。1977(昭和52)年夏の甲子園で、やはり1年生ながら5連投で東邦高校を準優勝に導いた坂本佳一投手の記憶と重なったからでした。「バンビ坂本」と呼ばれた坂本さんに、39年前の甲子園の思い出も含めて語っていただきました。(聞き手＝法人広報課・中村康生)

後輩バンビたちが僕なんかより 実力は上です

藤嶋君を始め、「バンビ2世」と言われた後輩たちが何人かいますが、みんな僕の持っていなかったすばらしい技術とか精神力を持っています。僕を基準にしてそういう風に呼ばれる後輩たちには申し訳ないと思っています。笑い話ですが、息子たちに「バンビ2世って僕たちのことだよ」と言われます。高1と中2で、2人ともサッカーをやっています。

僕が1977年の甲子園で「バンビ」と呼ばれたのは、首が長くてひ弱なイメージに、ファンのいたわりの思いも込められていたのかも知れません。あの夏の炎天下、暑いなあとは思いましたが、疲れたとは思いませんでした。今の東邦高校もそうだと思いますが、僕らの時代も、阪口慶三監督のもとでの目標は甲子園優勝。精神的にも体力的にも相手チームより勝っていなければならなかったのです。毎日の練習メニューに加え、あとどれくらい、走るか、バットを振るか、腹筋、背筋をやるかと極限までの練習が続きました。

2年生の愛知県予選では決勝で負け、2度目の甲子園はありませんでした。今だからこそ言えるのかも知

れませんが、野球部での3年間は勝って当たり前だという重圧もありましたし、バンビと騒がれたことで、僕なりのつらい体験もありました。常にユニフォーム同様に純白でなければならないわけですから。54年間生きてきて無心に輝くことができたのはあの「バンビ」であった3週間だけだったのかも知れません。



甲子園で力投する坂本投手(東邦高校野球部史から)

職員室に飛び込み阪口先生に 入部を直訴

中学生時代はレギュラー選手ではありませんでしたが、東邦高校には、野球をやるぞという決意で一般入試で受験しました。野球用具一式を持って東邦の門をくぐった入学式の日、ホームルームが終わると職員室に監督の阪口先生を訪ね、「野球部に入れてください」と直訴しました。一般の生徒なら入学式後のクラブ紹介を見てからどの部に入るかを決めるわけで、阪口先生には「お前のような飛び込みは初めてだ」とあきられました。野球部は毎年80人から100人は入ってくる花形クラブ。入学式当日に行動を起こしたことで、他の新入部員たちに先駆けて東郷グラウンドでの練習に参加でき、キャッチボールを見た阪口監督からブル



ベン入りを命じられました。おかげで夏の県大会では背番号10でマウンドに立ち、甲子園では1番をいただきました。

もちろん今年の選抜でも後輩たちの活躍を楽しみにしています。東邦は昨年11月の明治神宮大会の準々決勝で青森山田に敗退しましたが、試合を見てくれた東京の友人からは、「ちょっとミスが多すぎた」「東邦らしくなかった」と電話がありました。東邦はやはり全国から注目され、優勝が期待されている学校です。甲子園という大舞台でも隙が出ないよう、きめ細かく、きっちりした野球をしてほしいと思います。

最後の神宮でチームメートたちが登板のチャンスをつくってくれました

東京6大学野球リーグの法政大学に進みました。当時の法政は、4年間の春、秋計8シーズン中4シーズンで優勝しましたが、僕がベンチ入りできたのは4年生の時だけでした。全国からすごい選手たちが集っていて、新人戦以外にリーグ戦で神宮球場のマウンドに立つことはありませんでした。入学早々にスポーツ選手特有のイップスという運動障害に陥ったこともあります。精神的に若かったのでしょう。一時、追い詰められた状態になりました。新人を厳しく育てようという指導方法が自分に合わなかったのかも知れません。

4年生の秋、法政はリーグ代表として1983(昭和58)年11月に行われた第14回明治神宮野球大会に出場し、僕も1イニングだけですがマウンドに立つことができました。同期生たちが、「坂本に神宮のマウンドを踏ませてやろう」という雰囲気を作ってくれたからです。相手は名城大学。法政は初回に一挙に5点を先取し、7-0のリードで迎えた9回表、名城の攻撃を向かえたところで、僕に登板が告げられました。1イニ



久し振りに訪れた母校正門前で

ングだけでした、名城の最後の打者をライトフライに打ち取り、0点に押さえることができました。ライトの小早川毅彦から手渡されたウイニングボールは今でも大切に持っています。広島東洋カープ、ヤクルトスワローズで活躍し、今はNHKで野球解説をしているあの小早川です。野球ができる幸せと、チームメートのありがたさを今でもしみじみ思います。

「東邦の坂本」は社会では通用しません

法政大学から社会人野球の日本鋼管に進みましたが、ひじの手術もあり野球部には2年間在籍しただけでした。それ以降は野球とは離れ、日本鋼管勤務を経て岡谷鋼機でのサラリーマン人生を歩んでいます。社会人として生きていくうえでは「東邦の坂本」ではもう通用しません。愛知万博や中部国際空港の建設プロジェクトを売り込むため、「岡谷鋼機の坂本」を知ってもらおうと懸命でした。

野球とともに生きてきた経験が少しでも役に立つならと、2003年にはNPO法人「フィールドオブドリームス」を設立し、少年野球指導者をサポートする活動にも関わってきました。「バンビ坂本」として輝けたのは3週間だけでしたが、野球ができる環境にずっと身を置けたことに感謝するとともに、野球を通してかけがえのない友たちを得ることができたことを誇りに思っています。

学生の皆さんにエールの言葉を贈るとしたら「有言即行」でしょうか。僕が東邦高校で絶対に野球部に入れてもらおうと、入学式の日職員室に阪口監督を訪ねて直訴したように。人によって伸びる時期は違うと思いますが、努力の結果は必ずいつか花開くことを信じ、頑張ってください。

坂本 佳一(さかもと・よしかず)さん

名古屋市南区出身。1977年夏の甲子園で東邦高校が準優勝した時の1年生エース。1980年に法政大学経済学部に入學。東京6大学野球リーグ、社会人野球の日本鋼管でもプレー。現在は岡谷鋼機(名古屋市中区)に勤務し建設プロジェクトを担当。少年野球を育てるためのNPO活動やNHK高校野球解説でマイクに向かう時も。54歳。

東邦学園「フレンズ・TOHO」 設立20年で渡辺和子さんが記念講演

東邦学園「フレンズ・TOHO」の設立20年記念講演会が9月19日、名古屋市中区の名古屋東急ホテルで開催され、ノートルダム清心学園理事長の渡辺和子さんが記念講演を行いました。

渡辺さんは「現代の忘れもの」のテーマで、200人近い参加者に講演。「愛知県は両親の出身地でありとても懐かしい場所です」という渡辺さんは、9歳の時、2.26事件に遭遇し、教育総監だった父が目の前で青年将校によって命を落としたこと、厳しい母子家庭生活を余儀なくさ



200人近い参加者に講演する渡辺さん

れた戦後、18歳で洗礼を受けカトリック信者となり、ボストンでの大学院生活を経て、大学学長として若い学生たちと関り続けてきた人生を振り返りました。



2016年2月で89歳を迎える渡辺さんは、「若い時に比べたら身長が14cmも低くなりましたが、これまで見ることができなかったものも見えるようになってきました。人間は謙虚でなければいけません」と、時にはユーモアをまじえながら、「待つことができる心、人を思いやる心、自分を大切にできる心」の大切さを語りました。

渡辺さんは榊直樹理事長の感謝の言葉を受けた後、午後6時から始まる岡山でのミサに参加するため大きな拍手に送られ、会場を後にしました。

地域創造研究所

年齢、地域を超えた200人が参加し 『地球のステージ4』を開催

地域創造研究所所長 山極 完治

11月28日(土)に本学で「地球のステージ4～果てなき地平線」が開催されました。この公演は、ライブ音楽と大画面の映像、スライドと語りを組合せた新しいタイプのコンサートステージ、2012年より本学で開催し、今年で4回目を迎えました。

この公演には、多くの老若男女、地域を超え約200人が大教室を埋め尽くしました。NPO法人地球のステージ代表理事桑山紀彦さんは、最近では東ティモール、パレスチナのガザ地区など紛争地帯で奔走する医師であり、ご自身も東日本大震災の被災者でもあり

ます。得難い体験を裏づけにした言葉には力があり、多くの人を惹きつけるものです。私たちに「生きる意味」を問いかけ、それぞれの「生き



フロアからの質問に一つ一つ答える桑山さん(中央)

方」を振り返る貴重な場となりました。学生たちに向かい「今、この時期を大切にしてほしい、無駄にはいけない」と強く訴えかけ、それに応え学生から核心を突く質問が出るなど、意気込みを感じる熱気に包まれた公演会となりました。

東邦会

「東邦の和」51号で特集の 「社会で活躍する同窓生」が好評

高校同窓会 東邦会事務局

東邦会(東邦商業学校・東邦中学校・東邦高等学校の卒業生で組織)では、毎年10月に同窓会報「東邦の和」を発刊し、全ての同窓生および在校生や学園関係者にお配りしています。前月号より大幅にリニューアルし、一段と読みやすく親しみやすいよう工夫されています。今回も巻頭には、「社会で活躍する同窓生」を特集記

事として組みました。角界、芸能界、財界など各方面での著名人も登場。これもまた多くの同窓生からご好評をいただいています。さらに現役生のクラブ活動や進学状況も詳しくお知らせするとともに、各学年の同窓会やOB会の様子も掲載しています。今後とも事務局では、学園関係者の皆さまから様々な情報提供をお待ちしております。



卒業生、在校生にも大好評「東邦の和」第51号の表紙



愛知東邦大学から 初のプロ野球選手 が誕生

榊学長を訪れた高柳さん

愛知東邦大学硬式野球部出身で富山県の社会人野球チームに所属する高柳翔宇選手(2013年経営学部卒)が、プロ野球独立リーグの福井ミラクルエレファント(福井市)からドラフト指名を受け、入団が決まりました。愛知東邦大学出身者では初のプロ野球入団者となります。

高柳選手は右投げ右打ちの内野手。2009年に国士舘高校から愛知東邦大学に入学。1年生からセカンド、

サードを守りながら主軸打者として活躍し、4年生の時は主将を務めました。高柳選手は愛知東邦大学時代から指導を受けている萩原幹典コーチとともに12月15日、母校を訪れ、榊直樹学長に入団のあいさつを行い、「プロ野球選手になる最後のチャンスに挑戦してみたかった。最終目標であるNPB(日本野球機構)をめざして頑張りたい」と決意を語りました。

愛知東邦大学学生寮「TOHO Learning House」を開設します

学生課 二宮 加代子

愛知東邦大学は2016年4月、学生寮「TOHO Learning House」(ラーニング・ハウス)をオープンすることになり、新入生、在学生を対象に募集を始めました。

この学生寮は、学生の“学びと成長”の場を創出し“自分で考え成長する”をコンセプトに運営される東海地区では新しい試みの寮となり、愛知東邦大学の教育活動の新たな挑戦でもあります。

この「TOHO Learning House」は、一部屋に6人

で生活する仕組みであるシェアハウス形式を取り入れ、日常生活の中で将来の社会人として必要とされる素養を磨く環境を整えています。また、共同生活で培われる人間力だけでなく、寮内外で行われる地域交流や独自イベントを準備し、年間プログラムを通して授業で学んだ専門スキルを実践するなど、魅力ある生活環境を“寮生自ら”が創り出す仕組みを兼ね備えた従来の概念を打ち破る新しいコンセプトの学生寮です。

入寮定員は41人(6人部屋6室、1人部屋5室)。月額寮費は6人部屋が1万9000円、1人部屋が4万円で、学生負担を最小限に抑えることで、学生生活をバックアップしていきます。

東邦学園同窓生入試のお知らせ

愛知東邦大学・東邦学園大学・東邦学園短期大学・東邦高等学校卒業生の子または愛知東邦大学在学生・卒業生のきょうだいに対して入試を実施します。

特典として愛知東邦大学の入学金が半額になります。

一般入試と比べ条件も有利です。ぜひこの機会にご利用ください。

【Ⅲ期 出願期間】 2016年1月29日(金)～2月17日(水)

【お問合せ】 愛知東邦大学 入試広報課 TEL: 052-782-1600

愛知東邦大学 コミュニティカレッジ

2016 年度前期公開講座のご案内

地域に開かれたキャンパスとして、本学の特色を活かした講座を開講します。地域の皆様との知的交流を通して、「学びのコミュニティ」を創出します。日々をより知的に過ごす——。共に学びませんか。

2016 年 4 月 経営学部国際ビジネス学科 開設記念講座

～東海地域の企業の海外事業をしっかりと支える「コア人材」を育成します～

アメリカの「選挙」の話

今年は、アメリカ大統領選挙の年です。「大統領選挙は、直接選挙、それとも、間接選挙でしょうか」「これまでに女性候補者はいたでしょうか」「日本の選挙との仕組みの違いは」「一票の重みはどう対処されているのでしょうか」これらの問いをテーマに「選挙」について一緒に考える講座です。

- ◆講 師 佐々木裕美 本学経営学部教授
岩野一郎 南山大学名誉教授
- ◆日 時 9/3 土曜日 13:00～14:30
9/10 土曜日 13:00～16:10
- ◆受講料 1,500 円

英文多読入門

ーオックスフォード・リーディングツリー(ORT)を読むー

英文多読とは、やさしい英語の本をたくさん読んで英文に慣れ親しむことです。多読に関する説明とともに、英文多読用図書を読みます。どなたでも大歓迎です。必要とされる英語のレベルは中学校 1 年修了程度です。ごいっしょに学びませんか！

- ◆講 師 竹越美奈子 本学経営学部准教授
- ◆日 時 7/2・16・23 各土曜日 10:00～11:30
- ◆受講料 1,500 円

近畿日本ツーリスト株式会社 寄附講座

失敗しないパッケージツアーの選び方

ーそうだ、海外へ行こうー

「せっかくの海外旅行だから、ツアー選びを失敗したくない」「以前参加したツアーがいま一つだったから、今度こそ自分に合ったツアーを選びたい」という方々に、秘訣をお伝えします！

- ◆講 師 安齋みどり
- ◆日 時 6/18・25 各土曜日 10:00～10:40
- ◆受講料 無料

SMBC コンシューマーファイナンス株式会社 寄附講座

パパ・ママ一緒に考えよう！

将来のための生活設計

将来、子どもにどれくらいお金がかかるの？家族が増えると生活費はどれくらい？金融や資産運用の知識は一切不要です。子育てや生活に必要な資金に関する不安の解消を目指します。

- ◆講 師 高橋洋平
- ◆日 時 6/11 土曜日 10:00～11:30
- ◆受講料 無料

学部の特色を活かしたオススメ講座

学びをとおして
職場での
モチベーション
Up を！

企業の底力を確実にアップさせる ブランディングの最新ノウハウ

ブランディングとは、《これからの時代にどんな存在であるべきかというコンセプトを定めること》から始まります。成功企業事例をご紹介します。架空企業をテーマにブランド戦略を実際に立案します。

◆会場
ウインクあいち

- ◆講 師 上條憲二 本学経営学部教授
- ◆日 時 5/17・31 6/7・21 7/5・19 各火曜日 18:30～20:00
- ◆受講料 6,000 円

レジスタンストレーニングを 体験しよう！！

筋肉に負荷を与えるレジスタンストレーニングを体験して、筋力アップすることで、身体のバランスが改善し快適なライフスタイルを手にすることが可能です。是非一度、お試しください。

- ◆講 師 葛原憲治 本学人間学部教授
- ◆日 時 5/11・18・25 各水曜日 18:30～20:00
- ◆受講料 2,000 円(スポーツ保険代を含みます)

脳科学・心理学の知識を生かして、 脳の活性化を体験しよう

マルチタスク(複数の作業を同時に行う)運動を体験していただくなど、脳科学や心理学の知見から、脳の活性化や認知症予防に効果的な方法をご紹介します。楽しみながら体験してみませんか。

- ◆講 師 橘廣 本学人間学部教授
中野匡隆 本学人間学部助教
- ◆日 時 6/10・17・24 各金曜日 13:00～14:30
- ◆受講料 2,000 円(スポーツ保険代を含みます)

歩いて行ける地域生活圏を共に 創り出してみませんか？

少子・超高齢社会を乗り切る上での頼りは、充実した「歩いて行ける地域生活圏」です。豊かな地域生活圏づくりの重要性をごいっしょに考えてみましょう。

- ◆講 師 山極完治 本学経営学部教授
- ◆日 時 6/14 火曜日 18:00～19:30
- ◆受講料 500 円

各講座の詳細、講座お申込みから受講スタートまでのステップについては、3 月 7 日(月)以降、本学の公式 Web ページにてご確認ください。

愛知東邦大学

検索

各講座の会場は本学ですが、以下の講座については、ウインクあいちを予定しています。
「企業の底力を確実にアップさせるブランディングの最新ノウハウ」

教育学部は、
名東区
子育て支援ネットワークと
連携した活動を計画中！